2026 年度

京都女子大学大学院家政学研究科

（博士後期課程）

生活環境学専攻　食物栄養学研究領域

入学試験問題

【専門科目】

答は問題毎に解答用紙（I, II 各 1 枚）に記入すること

Ⅰ　次の英文を和訳しなさい。

[redacted]

II　以下の問題 A または B のどちらか 1 問を選択し、答えなさい。

A　以下の症例を読んで、問 1～3 に答えなさい。

【症例】

精神科病院に通院中の 50 歳代男性である。主病名は統合失調症で、発症から 20 年以上が経過している。現在は地域で一人暮らしをしている。抗精神病薬を長期に内服しており、近年は陰性症状として意欲低下および活動性低下が目立っている。

最近になり体重増加および腹囲増大が認められ、定期通院時の血液検査において脂質異常症を指摘された。主訴として、便秘、腹部膨満感、口渇を訴えている。

身体所見および検査所見を以下に示す。
身長 168 cm、体重 86 kg。血液検査では、AST 63 U/L、ALT 74 U/L、γ－GTP 121 U/L、HDL-C 34 mg/dL、LDL-C 145 mg/dL、TG 310 mg/dL、空腹時血糖 131 mg/dL、HbA1c 6.7%、eGFR 51 mL/min/1.73m²であった。

食事内容は加工食品や菓子類に偏っており、野菜摂取量は少ない。調理習慣はほとんどなく、日常の食事はコンビニエンスストアや総菜への依存が高い。また、コーヒーや清涼飲料水の摂取が多く（約 4 本／日）、身体活動量は低い。日中は自宅で過ごす時間が長い。

本人は「食事を変えた方がよいとは思うが、何から始めればよいかわからない」と話している。

問1　本症例についての栄養評価を、SOAP 形式ならびに栄養ケアプロセスを用いて評価しなさい。（400 字以内）

問 2　本症例は、統合失調症の病態、抗精神病薬治療、生活・行動要因および栄養状態が、どのように相互に影響し合い、現在の臨床像（肥満、糖脂質代謝異常、肝機能障害、便秘、口渇）を形成していると考えられるか。精神栄養学の視点から、因果関係および悪循環構造を意識して論じなさい。（400 字以内）

問 3　本症例に対し、管理栄養士が中心となって実施する栄養学的介入および行動変容支援について、多職種連携を前提として具体的に立案しなさい。 その際、以下の点を含めて論じること ①期待される効果　②精神疾患特有の困難性　③介入の限界およびリスク（400 字以内）

B　以下の問いに答えなさい。

健康日本 21（第三次）では、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」がビジョンとしてあげられている。このビジョンを実現するため、さまざまな国民の健康づくり対策が展開されている。国民の健康づくりの方法のひとつとして、食環境の整備が考えられる。

高齢者の低栄養課題を改善するための食環境づくりで考えられる例を、食品（食物）へのアクセスと情報へのアクセスのそれぞれの食環境整備について、1例ずつあげなさい。また、その例をあげた理由を簡潔に記しなさい。